

## 家庭叢話

光藤 ふで

## ○母の不在

實に一家の中で母親の居ない程物淋しい事は御座いません。私共よく子供の頃學校から歸りましてお母さんが見えないと何となく失望した事を覚えて居ります。昔も今も人の心に變はあるまいと思ひます。私も實は子を持ちながら學校に出て居りました一人で御座いますが、長男が五歳の折、幼稚園に通はせておきました。寓居は其の幼稚園のお茶の水から近い湯島で御座いました。或る日の事、初夏の事として私は學校から歸り、沿衣に換へまして、しばらく落付いて休んで居りました。モ一幼稚園から子供が歸る頃と待心に思ふて居りましたが中々いつもの通りは歸宅いたしません。しかし父親がすぐ隣りの學校につとめて居りますから、其處へいつて待つて居て一緒に歸る事と存じ

て居りました。

三時頃父親は歸宅いたしました。いつもの腰巾着の長男が見えません。先づ胸をおどらして、子供は如何いたしましたと言ひも終らぬ中、マダ禮らないの、モ一午前退けたのにとあきれ顔、ア一それでは何處かに迷子にでもなつて居るかしらん、と思へば胸もつぶるゝばかり、急ぎ手を分けて捜しに出かけました。

私はすぐ幼稚園に參りましたが、モ一誰れも居りません。小使が掃除をして居りますばかり。いきなり小使に聞きますと、モ一皆さんは午前御歸りとの事、それから、幼稚園を出まして、宅までの家について、軒別に聞きましたが一向分りません。只一軒の家のお神さんらしいのが、ア、あの坊チャンですか、毎日〳〵お父様とよくお通ひになります。今朝も見掛けましたが、御歸途は見ませんでした。マ一其れは御心配ですこと、いたく同情してくれました。が何等の手掛りもありま

せん。或家のお神さんはア、其様で御座いますか  
 マー此項は油断はなりません。先日何處々で  
 子供が浚はれて一向分らない相で御座いますよと  
 若しやと思ふ矢先に、こんな事を聞かされました、  
 モー眠は涙に曇り胸は一杯になりました。多分迷  
 子になるか、人に浚はれたに違ないが、幼稚園か  
 ら宅までの道はよく子供の知りぬいて居る所で決  
 して迷ふ氣支はない、そーいたしますと悪漢に浚  
 はれて居るとより外考へが浮びません。どうもこ  
 んな時にはよい方へ考へるよりか、悪い方へ考へ  
 まして、大層心配をいたしました。ア、モーあの  
 洋服姿を見る事が出来ないのかしらん、二度と彼  
 の愛兒に接する事は六ヶしい事か、今頃は何處で、  
 どんな悪漢に苦められて居る事かと、身も世もあ  
 らぬ悲痛、幾ら捜しても駄目と諦めまして、歸途  
 につきましたが、途中同じ様に捜して下さる人に  
 逢ひました。互に手掛りなきまゝ、困つて居りま  
 すと、父親も亦何等手掛りないと青息吐息。サア

早く警察の力を借り様と急ぎ其方面へ運動を始め  
 ました。私は一人悄然深い失望と煩悶に身を  
 售しながら宅の門まで参りますと、家主の奥さん  
 や、子息さんが、駈けて来て、「奥さんよい所で御  
 目にかゝりました、今神田の警察署から電話がか  
 かりまして、坊チャンを止めてあるから早く迎に  
 来い。泣いて仕方がないとの事ですと息つきあへず  
 語られました。聞く私の心中はマー何んな喜悅  
 と光明とに充されたでしよう、「マーありがたう」  
 と申して居ります所へ父親も歸りまして委細を話  
 しますとすぐ飛んで迎に行きました。  
 しばらく待つて居りますと、子供は父さんに手  
 引かれながら、種々の玩具やパンなど持つて歸つ  
 て参りました。マー警察署では大泣きして居まし  
 たかと聞きますと、「イエモー迎に行つた時には泣  
 き止んで、署長さんが色々親切に慰めて、國旗を  
 作つてやつたり、パンを與へたりして、遊ばせて  
 呉れてと聞くより先立つものは噓し涙で御座いま

した。何が故に此の幼児が神田三界へ迷ひ込みしかと不審を打たる、方も御座いませう。よく分り切つた道を間違る筈もなし、子供心に無暗に遠征を試みる程暴舉を企てる程の勇氣のある子でもありません。アー愛兒は母を尋ねて、母を慕ふて、神田あたりへ迷ひ込んだので御座いました。丁度私は今川橋の少し先の日本橋の學校にとめて居りました。時々愛兒を連れて、學校に遊ばせた事が御座いました。其の學校の門前を電車が通つて居ります。常に兒は二階の窓から電車を眺めて。大騒いで喜んで居りましたが、今このお茶の水の幼稚園の門前も電車が通つて居りますから、子供心に不圖宅に歸つても下女や書生ではおもしろくないとも、思ひますまいが、母なき我家を無趣味に、つまらなく感じたものと見えますして、母さんの學校の前を電車が通つて居た、今こゝにも電車がある、この電車道を傳へば岐度母様の學校に行かれるであらう、一つ行つて見ようと思つたに違

ありません。幼稚園を出てすぐ電車路を傳ひましたら、あの電車はチヨード神田の方へ行くので御座いますから、ト〜神田へ行きましたが、サ一路は不明となる。學校はなし、お腹はすく、心細くなる、大きな聲で泣き叫んで居りましたのを巡查に見出されたに違ないのであります。よく其の不心得を諭しまして、それから矢張り通つて居りましたが、一年も経たぬ中の或日の事、私が學校から歸りますと、愛兒の姿が見えませぬ。すぐ下女に聞きますと、まだお歸りなさらぬとて旦那様が御迎にいらつしやいましたとの事に、又いつかの事をくり返したのかと、私も亦ちつとして居られませぬので、出掛け様といたしますと、父親に手を引かれて歸つて來ました。様子を聞きますと「母さんの學校へ行きたいと思ふて、いつやらは電車通りを行つたが駄目でしたから、今度はいつても母様に連れられた道を覺えて、今川橋の方に رفتつた所が、途中何處かの奥様が下女を連れての

買物に、不圖少さい子が一人何處に行くのですと  
 不審に思はれたか、尋ねられた相です。所が子供  
 は母さんの學校に行くとはばかり、何處に學校があ  
 るやら、何處まで行く事やら、分らない様でした  
 から、奥様が、ソレデは駐在所へでも頼んだがよ  
 からうと、お連れになりましたが、イヤダとて聞  
 き入れません。色々親切に御尋ね下さいましたの  
 で、宅の番地が御分りになりました、下女をして  
 送り届けて下さる途中、父親に逢つたので御座い  
 ました。「マ―何といたしても、子供を持つて母親  
 が家庭を明けるといふ事は、家は兎も角、子供に  
 取つてどれ程の不幸か分りません、どうしても母  
 親は子供の歸る頃には、チャンといつもの様に家  
 に居て、笑顔で子供を迎へてやるべきものだと思  
 み、感じました。

持たすれば難をなだむる子供かな (一茶)  
 たちねのつまゝありや難の鼻 (蕪村)  
 轉びても笑ふてばかり難かな (千代)

御 馬

へ 2/4  
 調

|| 5 3 5 3 | 2 2 | 5 3 2 2 | 2 0 | 1 1 2 2 | 3 3 2 1 | 2 2 1 6 ||  
 1. ヒンヒン ドーディー ヒンディー コーエタ フトツタ オホキナ

2.

|| 5 5 5 0 | 6 6 1 1 | 2 2 2 1 | 3 2 2 1 | 2 0 | 1 1 1 1 | 2 2 2 0 ||  
 ガムマ ヒキクル ベツトウ ハイハイ ハイモシモシソレハ

|| 3 3 2 1 | 2 2 2 0 | 3 3 5 5 | 6 5 3 2 | 1 5 1 2 | 3 2 1 0 ||  
 ドナタノ ガムマ リクケン ダイショウ オムマテゴザル。